



ヘアドライヤー

商品
テスト

髪の毛を乾かすのに欠かせないヘアドライヤーの性能は年々進化しており、家庭用ながら美容室でも使用されているモデルやヘアケア機能を搭載したものなど幅広く販売されています。価格も数千円のものから5万円を超えるものまであります。本試験では1万円前後のヘアドライヤーの風量や風温、風の広がる範囲等を調べ、消費者へ情報を提供します。

テスト品目

1万円程度のヘアドライヤー 5 銘柄
3千円程度のヘアドライヤー 2 銘柄 (参考品)



テスト方法

試験は室温 25 ± 2 ℃、湿度 $50 \pm 10\%$ 、ノズル等は外して行い、風量調節ができる銘柄は最大風量で行いました。

○**風速及び風の広がる範囲** 縦 $11 \times$ 横 9 マス (1マス 2.5×2.5 cm) の中心が最大風速にな

るように送風し、距離 5 cm及び 10 cmで各マスにおける風速を測定しました。

○**乾燥能力** 25°C の水に湿潤させた 10×10 cmの綿布 (三重ガーゼ2枚重ね、周囲縫い止め) を吹き出し口から 5 cmの距離で正面から5分間温風を送風して乾燥させ乾燥前後の質量を測定しました。

○**温風温度** 円周約 65 cmのボール表面に厚さ 3 mmのフェルトを張り付けた銅板 (20 mm角、厚さ 0.5 mm) から 30 mm離れた位置から銅板に対して直角に送風し温度を測定しました。

○**消費電力** 消費電力を測定し、定格消費電力と比較しました。

○**電気代** 10分間送風した際の消費電力量を測定し、電気代は 30 円/kWhとして算出しました。

○**表示** 安全に関する表示の有無を調べました。

テスト結果

<風速及び風の広がる範囲>

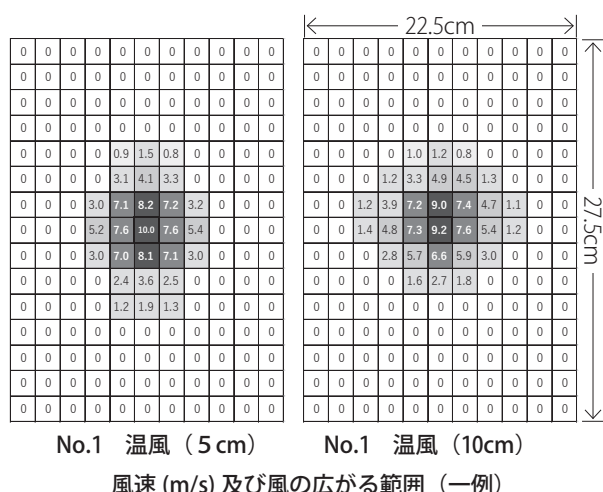
温風での最大風速は 5 cmでは 9.9 (No.4) ~ 13.4 m/s (No.2)、 10 cmでは 9.2 (No.1) ~ 13.1 m/s (No.2) でした。風の広がる範囲に大きな差はありませんでした。参考品 (No.6、No.7) は 5 cmで 9.7 (No.6)、 10.6 m/s (No.7)、 10 cmで 7.8 (No.7)、 9.1 m/s (No.6) でした。

冷風での最大風速は 5 cmでは 6.1 (No.1) ~ 12.7 m/s (No.2)、 10 cmでは 5.7 (No.1) ~

テスト品一覧及びテスト結果 (No.6、7: 参考品)

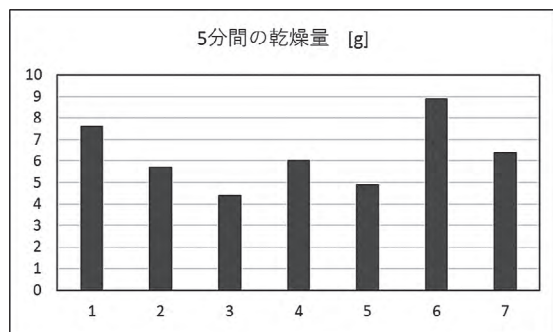
No.	メーカー及び商品名	型式	消費電力 [W]	本体質量 [g]	最大風速 (温風・5cm) [m/s]	温風温度 [℃]	電気代 (温風) [円]	購入金額 (税込み) [円]
1	Panasonic ヘアドライヤー ナノケア	EH-NA2K	1200	475	10.0	70.7	5.7	11,270
2	KOIZUMI ダブルファンドライヤー	KHD-W815	1300	655	13.4	43.0	6.6	10,910
3	TESCOM プロテクトイオン ヘアドライヤー	TID5000	1400	685	13.0	41.9	6.9	10,350
4	モッズ・ヘア アドバンス ラピッドボート	MHD-1254	1200	630	9.9	38.0	4.2	11,310
5	SALONIA スムースシャインドライヤー	SAL23209	1200	493	10.3	38.7	5.7	13,200
6	KOIZUMI マイナスイオンヘアドライヤー	KHD-9600	1200	400	9.7	56.1	5.7	2,980
7	Panasonic ヘアドライヤー イオニティ	EH-NE4J	1200	465	10.6	53.2	5.7	3,150

12.7m/s (No.2) でした。風の広がる範囲に大きな差はありませんでした。参考品は 5 cm で7.3 (No.7)、9.0m/s (No.6)、10cm で7.2 (No.7)、8.4m/s (No.6) でした。



<乾燥能力>

温風時に乾燥量は最大となり、乾燥量は4.4 (No.3) ~7.6g (No.1)、参考品は6.4 (No.7)、8.9g (No.6) でした。



<温風温度>

温風温度は38.0 (No.4) ~70.7℃ (No.1)、参考品は53.2 (No.7)、56.1℃ (No.6) でした。

<消費電力>

消費電力は1145 (No.5) ~1392W (No.3) でした。定格消費電力に対して95 (No.5) ~102% (No.4) であり、電気用品安全法による規格基準 (定格消費電力に対し±10%) を全銘柄で満たしていました。参考品は1132 (No.6)、1154W (No.7)、定格消費電力に対して94 (No.6)、96% (No.7) であり規格基準を満たしていました。

<電気代>

温風で10分間稼働した場合の電気代は4.2 (No.4) ~6.9円 (No.3)、参考品 No.6、7 は

ともに電気代5.7円でした。冷風で10分間稼働した場合の電気代は0.3 (No.1) ~1.2円 (No.2)、参考品は電気代0.3 (No.7)、0.9円 (No.6) でした。

<表示>

電気用品安全法に定められた安全規格を満たしていることを証明する PSE マークがすべての銘柄で表示されていました。また電気製品の安全のための第三者認証である S マーク (任意) が No.1、2 と参考品の No.6、7 で表示されていました。



PSE マーク



S マーク

消費者へのアドバイス

- ・髪を乾かす際には風量が大きく温度が高いものほど早くなります。ただし温度が高いと髪を傷める原因にもなりますので、温度が高い場合はドライヤーを髪に近づけ過ぎないようにすると良いでしょう。
- ・多機能モデルはサイズも大きく重くなる傾向があります。中には800g 近くあるものもあるため購入の際には重さも確認すると良いでしょう。
- ・最近では温度調整機能で送風温度が高温にならない銘柄もあります。髪を傷めるリスクを抑えるかわりに乾燥までの時間は長くなる場合があります。
- ・最大消費電力が1200W を超えるドライヤーを使用する場合、コンセントは単独で使いましょう。
- ・ドライヤーのケーブルを本体に巻き付けて収納することを繰り返すと、ケーブルがねじれて断線し火災や感電、やけど、ショートの原因になります。ケーブルはバンドなどでまとめると良いでしょう。
- ・ドライヤーの後ろ側にある吸い込み口にほこり等がたまると故障の原因になるため定期的に清掃しましょう。